



まいぶん探訪

本庄市立歴史民俗資料館

本庄市立歴史民俗資料館は、明治16年に洋風建築として建てられた旧本庄警察署の建物を、建築当初の姿に復元したものです。2階ベランダの列柱は、コリント式を模して木柱に彫刻されています。昭和55年に開館し、現在県指定有形文化財になっています。

1階は縄文時代～中世までの出土品が展示してあります。本庄市のマスコットキャラクター「はにぼん」のモデルになった盾持人物埴輪や、国内初の完全な形で見つかったガラス玉の鋳型など、貴重な出土品が展示されています。

2階は近世～近代の史料が展示されています。中山道の宿場町として繁栄し、繭と絹の町へ発展した本庄市の歴史を伝えています。



洋風建築の旧本庄警察署の建物を復元しています

展示品



縄文時代の土器



古墳時代の土器



古墳時代の盾持人物埴輪(小島前の山古墳出土)



ガラス小玉鋳型(薬師堂東遺跡)



本庄市マスコット「はにぼん」

左から2番目の盾持人物埴輪をもとに
はにぼんが生まれたんだ!
笑顔がかわいいでしょ!?



展示室の様子



展示品の見学風景



本庄市立歴史民俗資料館のご案内

- 住所 〒365-0032 埼玉県本庄市中央1-2-3
- 開館時間 午前9時から午後4時30分まで
- 休館日 月曜日(休日の場合は翌日)、年末年始
- 入館料 無料

- 交通案内 JR高崎線本庄駅から徒歩約10分
- 問い合わせ 本庄市教育委員会事務局文化財保護課
- 電話 0495-25-1185

編集 (公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4-4-1 Tel.0493-39-3955 Fax0493-39-3579
発行 埼玉県教育委員会 〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1 Tel.048-830-6988 Fax048-830-4965

※本号に掲載された遺跡・遺物の写真は、各調査機関・管理機関から提供されました。

埋文さいたま

埼玉県の遺跡と出土品の情報誌

No. 60



特集

文字・もじ

—発掘された埼玉の文字資料—

さいたま発掘情報 (2016年1月～12月)

平成28年度文化財収蔵施設 新収蔵資料

まいぶん探訪 本庄市立歴史民俗資料館



監修/発行 埼玉県教育委員会

企画/編集 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

埼玉県マスコット「コバトン」

表紙: 飯能市 別所平遺跡(縄文時代)

特集

文字・もじ

—発掘された埼玉の文字資料—

物言わぬ遺跡や土器・石器などの遺物から歴史を語るのが「考古学」です。その中にあって唯一、具体的な人の名前やできごとがわかるのは「文字資料」です。木簡や墨書土器のほか、石や瓦に文字を刻んだものもあります。いずれも、過去を生き活きと伝える、まさに歴史の語り部といえましょう。



金錯銘鉄剣

行田市 埼玉古墳群 稲荷山古墳

裏面

表面

金錯銘鉄剣は、稲荷山古墳第一主体である礫層から出土しました。剣身の両面には「金象嵌」という手法を用い、一一五文字の銘文が刻まれています。

「辛亥年」（四七）から始まる銘文には、「ヲワケの臣」が自分自身の八代にわたる系譜と「杖刀人首」として「ワカタケル大王」（雄略天皇）に仕えたことが記されています。当時の歴史を語る史料は「古事記」や「日本書紀」中国の史書『宋書』くらいしかありませんでしたが、鉄剣は、生の歴史を記した、まさに第一級の発見となりました。（所有：文化庁 写真提供：埼玉県立さきたま史跡の博物館）

※読み方は諸説あります

（表面）「辛亥年七月中記乎獲居臣上祖名意富比地其兒多加利足尼其兒名豆已加利獲居其兒名多加披次獲居其兒名多沙鬼獲居其兒名半豆比」

（裏面）「其兒名加差披余其兒名乎獲居臣世々為杖刀人首奉事来至今獲加多支鹵大王寺在斯鬼宮時吾左治天下令作此百練利刀記吾奉事根原也」

木簡

行田市 小敷田遺跡

小敷田遺跡からは一〇点の木簡が出土しました。ここでは第三号木簡を紹介します。「九月七日」は秋の収穫時期に合致します。続く五二六、四三六、四〇八束とその合計一三七〇（束）は稲束数を表します。「小稲」二〇五五束は一三七〇束の一・五倍になります。国家制度としての「公出挙」が始まった八世紀初頭頃には、利率が五割であったことが知られており、これは当時の稲の利息付貸借制度である「出挙」を記録したと考えられます。伴出した土器の年代とも合い、古代出挙制度の具体的な内容を示す資料として貴重です。

「九月七日五百廿〇四百」
 「卅六次四百八束并千〇百七十小稲二千五百五束」
 「九月次四百八束并千〇百七十小稲二千五百五束」

木簡

本庄市 山崎上ノ南遺跡



（左）写真 （右）実測図



山崎上ノ南遺跡

本庄市山崎上ノ南遺跡は、上武山地の先端部、小支谷に面した南斜面にあります。木簡は、寶龜二年（七七二）十月二日檜前マ（部）名代女という女性が、「上寺」から借りた稲四〇束を返済したことを、税長の大伴国足が確認したという内容です。奈良時代の「出挙」に関わる木簡と考えられます。（資料提供 本庄市教育委員会）

「檜前部名代女上寺稲肆拾束
 寶龜二年十月二日 税長大伴国足」

墨書木札

久喜市 栗橋宿跡 第二地点



「武州栗橋 いづみや
 全橋本又左衛門殿行 佐兵衛」



栗橋宿跡

久喜市栗橋宿跡では近世の日光道中（街道）の町屋が調査され、多量の墨書された木札が出土しています。この木札は「いづみや佐兵衛」という人から武州栗橋の「橋本又左衛門」に送った荷物に付けられた「送状」と思われます。栗橋宿の街道沿いに並んでいた店で使われたものでしょう。調査が進めば、近世栗橋宿の商業取引や店の具体的な様子がわかれると思われます。

漆紙文書

上里町 中堀遺跡

平安時代の住居跡から出土した漆紙文書は、反故紙を漆容器の蓋に転用したもので、漆の被膜に守られて奇跡的に遺存しました。二枚密着していたため、A片とB片に剥がしたところ、A片には「周逢流言」、「故護口鑠於」と漢籍の一部と思われる文章が記された後、「我」、「道」の字が書かれていました。B片には「我」が何度も書かれていました。中堀遺跡からは中国製の陶磁器や施釉陶器が豊富に出土し、内部には寺院も作られていました。僧侶が教典を写経したり、習書したものでしょうか。



漆紙文書A片 （左）写真 （右）実測図

墨書土器

坂戸市 稲荷前遺跡



（上）写真 （下）実測図



稲荷前遺跡

井戸跡から出土した奈良時代初期の須恵器蓋の外面に、「〇里郡」、「多磨郡」、「男川」、「〇尺本」、「〇〇」の墨書文字が記されていました。大里郡、多磨郡は武蔵国の郡名、男川は多磨郡小川郷を指すと考えられます。「〇尺本」は意味が不明です。稲荷前遺跡は入間郡に属していました。他の郡郷名が複数記されているので、入間郡家（郡役所）に勤務した役人が住んでいたのかもしれませんが。

ぼくしよどき
墨書土器

川越市 霞ヶ関遺跡・古海道東遺跡／日高市 天神峯遺跡



霞ヶ関遺跡
7～9次



古海道東遺跡



天神峯遺跡



霞ヶ関遺跡7～9次「入厨」



天神峯遺跡「賀厨」

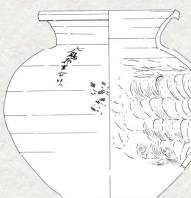
厨とは、食事の用意や食器の管理をしていた役所の付属施設です。川越市霞ヶ関遺跡からは、「入厨」と書かれた平安時代の墨書土器が四点出土しました。「入厨」は入間郡の厨を意味し、近くに入間郡家（郡役所）が存在する可能性が高いと思われます。同じ川越市内の古海道東遺跡からも「入厨」と書かれた墨書土器が出土しています。古海道東遺跡は東山道武蔵路の推定路線上にあり、入間郡家とは明らかに異なる場所です。また、日高市天神峯遺跡からは「賀厨」と墨書された灰釉陶器が出土しました。「賀厨」は今の上里町周辺にあった賀美郡の厨を意味しますが、まったく離れた高麗郡域に位置する、しかも役所でもない天神峯遺跡から出土しました。このように「厨」墨書土器は離れた場所に運ばれ、饗宴や給食に使用される場合があったようです。（霞ヶ関遺跡・古海道東遺跡 資料提供 川越市教育委員会）

くくしよ
刻書
須恵器

鳩山町 広町遺跡



大庭布直中収



広町A遺跡第1号住居跡

南比企窯跡群にある広町A遺跡出土の奈良時代の壺には「大庭布直六十段」と刻まれていました。壺とは貯蔵用の壺や甕を指し、「大庭」の値段は布に換算して六十段であるという意味です。一段は稲十束に相当したのでこの壺は稲六百束分になります。当時の相場からすると通常の約一五倍もの高価な品でした。土器が商品として生産されたことを示す貴重な資料です。（資料提供 鳩山町教育委員会）

もじがわら
文字瓦

東松山市 大谷瓦窯跡

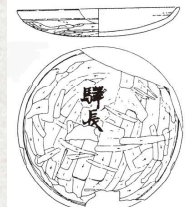
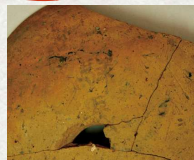


大谷瓦窯跡

国指定史跡の大谷瓦窯跡からは線刻された平瓦が二枚出土しました。一枚には「奈你口」と刻まれ、奈你寺、または奈你皮と読む説があります。もう一枚には「風水」「千月」などと記されています。七世紀末頃のものと考えられ稲荷山古墳金錯銘鉄剣を除けば県内で最古段階の文字です。（資料提供 東松山市教育委員会）

ぼくしよどき
墨書土器

川越市 八幡前・若宮遺跡



(上)写真 (下)実測図



八幡前・若宮遺跡

川越市八幡前・若宮遺跡は、武蔵国府と上野国をつなぐ東山道武蔵路に沿った場所にあります。八世紀初め頃の土師器皿に「驛長」と墨書されていました。墨書土器としては最も古い例の一つです。東山道では、三十里（約一六km）毎に駅家が設置され、都からの使者の宿泊・休憩、馬の乗り継ぎが行われました。「驛長」は駅家の管理者で、土器は驛長専用の器であることと示されています。周辺に武蔵国府から二つ目の「駅家」が存在したと推定されます。（資料提供 川越市教育委員会）

ぼくしよどき
墨書土器

東松山市 反町遺跡



「三田万呂」

反町遺跡の河川流路の岸辺から、「神矢」、「弓」と墨書された平安時代（九世紀）の須恵器が出土しました。河川の中からは矢柄に装着された雁股鏃という儀礼用の鏃が発見され、岸辺から川に向かって矢を射る神事（祭祀）が行われていたことがわかりました。北側にある流路跡からは「三田万呂」、「飯万呂」と墨書された奈良時代（八世紀）の須恵器が出土しました。「三田万呂」、「飯万呂」は人名です。河川を舞台にした神事が百年の時を隔てて執り行われていたことがわかりました。

くくしよ
刻書
紡錘車

本庄市 南大通り線内遺跡



(上)写真 (下)実測図

本庄市南大通り線内遺跡からは「武蔵国児玉郡草田郷戸主太田マ（部）身麻呂」と線刻された平安時代の石製紡錘車が出土しました。住所・氏名を記すことで、冥界や神仏に紡織生産の向上を祈念した、信仰や儀式的アイテムとして使用されたのかもしれない。また、「和名類聚抄」に記載された児玉郡「黄田郷」は、この紡錘車の発見によって児玉郡「草田郷」であることが判明しました。（資料提供 本庄市教育委員会）

もじがわら
文字瓦

鳩山町 新沼窯跡



5.「豊」豊島郡



1.「大井」児玉郡または久良郡大井郷



6.「男」男衾郡



2.「加美」賀美郡



7.「父」秩父郡



3.「入」入間郡



8.「高」高麗郡



4.「横見」横見郡



新沼窯跡12号窯

南比企窯跡群中の新沼窯跡は奈良時代、武蔵国分寺の創建瓦を焼いた窯跡です。武蔵国二一郡中、一六郡の郡名瓦と六郡九郷の郷名瓦が出土しました。新沼窯跡では注文主の郡名を、押型・押印・刻書によって記載したのです。国分寺造営という国家的プロジェクトに武蔵国の各郡と郷がこぞって協力したことがわかります。（1 押型、2～4 押印、5～8 刻書）（資料提供 鳩山町教育委員会）

旧石器時代の石器製作跡

① ハケタ・中通遺跡 (朝霞市)

遺跡は朝霞市宮戸にあり、北東に新河岸川を望む標高約19mの武蔵野台地縁辺部に立地しています。

今回の調査では古墳時代後期の竪穴住居跡59軒とともに、旧石器時代の石器集中(石器を製作した跡と思われる多数の割られた石器の広がり)が発見されました。石器が発見されたのは、約2万8千年～3万2千年前に堆積した立川ローム層です。発掘調査中の観察では製品は見られませんでした。今後資料整理が進めば、確認されるかもしれません。

調査機関・文：朝霞市教育委員会



遺物出土状況



調査区全景

縄文中期の大集落

② 別所平遺跡 (飯能市)

遺跡は飯能市大河原地区にあり、市内を東西に流れる入間川が山間部から市街地へと流れ出る地点の右岸にあたります。遺跡は標高約120mの北向き緩斜面に立地し、縄文時代中期中葉の環状ないし馬蹄形と考えられる集落跡です。道路の整備に伴い、平成26年9月から28年10月まで調査を実施しました。

調査区は集落の西側に南北方向の長いトレンチを入れる格好となり、狭い範囲に103軒の竪穴住居跡が複雑に重複して見つかりました。また、集落内から蒸し焼き調理を行った集土土坑も多数発見されました。住居跡と重なるように円形の土坑墓が環状をなして整然と並び、土坑墓からは副葬品と思われる耳栓や伏蕨が出土しました。住居が廃絶した後は墓域として利用されていたようです。

調査機関・文：飯能市教育委員会



埋土



住居跡と土坑墓群



調査区全景

さいたま発掘情報

2016年1月～12月



洪水層下に眠る縄文集落

③ 諏訪山遺跡 (行田市)

諏訪山遺跡は、埼玉古墳群西方約300mの洪水堆積層が厚く堆積する台地に広がります。厚い場所では約1mの洪水堆積層があり、その上から古墳時代前期の住居跡が2軒・後期の古墳跡が2基等、洪水堆積層の下から縄文時代中期の住居跡が5軒発見されました。

諏訪山遺跡では、これまで縄文時代中期の住居跡や土器等の出土例はありましたが、今回調査で5軒の住居跡がまとまって発見され、大規模な集落であることがわかりました。この縄文中期集落は、洪水堆積層に保護されていたため保存状態は良く、竪穴住居跡は当時の地表面から90cm以上掘り込まれていました。

調査機関・文：行田市教育委員会



縄文時代中期の住居跡



深鉢出土状況



住居跡遺物出土状況



弥生時代後期の環濠集落

④ 小谷場貝塚遺跡 (川口市)

遺跡は川口市小谷場にあり、荒川低地を望む大宮台地南端に立地します。縄文時代前期の貝塚と弥生時代後期の環濠集落を中心とした複合遺跡です。今回の第22次調査では、台地の崖線を巡る環濠や大型の竪穴住居跡などが発見されました。

環濠集落とは、周囲に深い濠をめぐらせ、外敵の侵入に備えたムラを指し、弥生時代に発達しました。住居跡からみつかった火皿式の炉跡や環濠から出土した赤彩の土器などには、東海地方の特徴をもつものが含まれており、当時の人びとの交流がうかがえます。

調査機関・文：川口市教育委員会



大型竪穴住居跡



遺物出土状況



環濠跡全景

火皿式炉跡

弥生時代後期の大規模集落

⑤ 北通遺跡 (富士見市)

遺跡は富士見市針ヶ谷にあり、柳瀬川を望む武蔵野台地縁辺に立地しています。これまでの調査で旧石器時代から近世までの複合遺跡であることが判明しています。なかでも弥生時代は、住居跡が100軒を超える大規模な集落跡であることが確認されています。今回調査した第79地点でも弥生時代後期の住居跡29軒など多数の遺構が発見されました。

調査の結果、弥生時代の住居跡が何軒も重なった状態で確認され、集落の中心地であったことがうかがえます。住居跡からは土製の勾玉やガラス玉なども出土しました。

調査機関・文：富士見市教育委員会



土製勾玉



弥生時代の住居跡



遺物出土状況



調査区全景

古墳時代前期の方形周溝墓群

⑥ 五反田遺跡 (坂戸市)

遺跡は坂戸市小沼にあり、坂戸台地北東端に立地しています。今回の調査では、古墳時代前期の方形周溝墓3基と古墳などが見つかりました。方形周溝墓とは周囲に方形の溝(周溝)を巡らす墓で、低い盛土があったと考えられています。

3基が接した状態で作られており、中央の方形周溝墓は一辺約12mを測ります。埋葬施設は発見されませんでしたが、周溝からは、土師器の壺や甕などが多数出土し、壺の底部は故意に穴がけられているものもありました。

調査機関・文：坂戸市教育委員会



調査区全景



古墳時代前期の方形周溝墓



調査風景



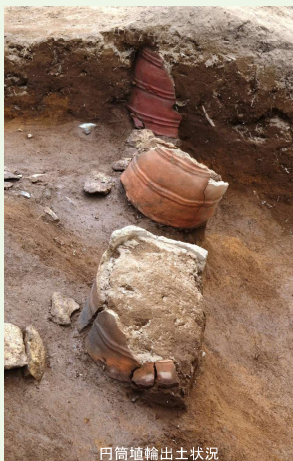
遺物出土状況



鉄砲山古墳全景



須恵器大甕出土状況



円筒埴輪出土状況

国内最大の上円下方墳

さんのうづか

⑧ 山王塚古墳 (川越市)

山王塚古墳は、川越市大東地区の入間川右岸台地上にある上円下方墳です。上円下方墳は、古墳時代終末期の7世紀後半～8世紀初め頃に造られた首長墓です。発掘調査で墳形が確認されたものは全国で6例しかありません。

山王塚古墳は下方部一辺63m、上円部径47m、高さ5m、これらの中でも最大の規模を誇り、現在川越市指定史跡となっています。

川越市では、平成24年度より発掘・地中レーダー等による山王塚古墳の確認調査を実施しています。その結果、幅約15mの周溝をもつこと、下方部外縁に土手状の盛土が巡ること、全長10mを超える横穴式石室を埋葬施設とすること等がわかり、大きな成果が得られています。また、石室の前庭部から7世紀後半の須恵器平瓶が出土し、築造年代を探る重要な手掛かりを得ることができました。

調査機関・文：川越市教育委員会



鉄砲山古墳前庭部の調査

さきたま

てっぽうやま

⑦ 埼玉古墳群鉄砲山古墳 (行田市)

さきたま史跡の博物館では平成21年度から史跡整備を目的として、鉄砲山古墳の発掘調査を実施しています。平成27・28年度は、石室前庭部の形状と規模の確認を目的として調査を行いました。その結果、角閃石安山岩の切石を組み合わせて積み上げ、緑泥片岩の板石を天井として用いた横穴式石室と、その入口を塞ぐために角閃石安山岩とチャートの河原石を積み上げた閉塞施設を検出しました。石室の入り口周辺の床には白い粘土を貼り付け、その横からは須恵器の甕が据え置かれた状態のまま出土しました。また、石室の正面には円筒埴輪列が並べられていたことも分かりました。

調査機関・文：埼玉県立さきたま史跡の博物館



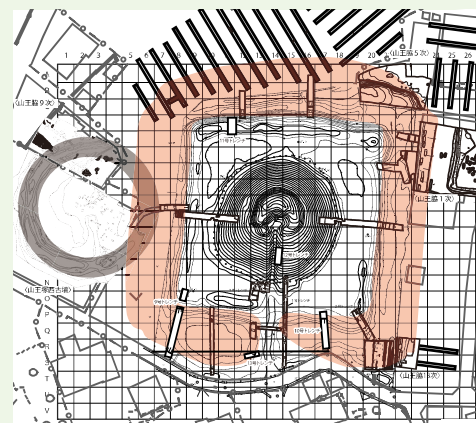
古墳全景



平瓶出土状況



古墳の周溝(トレンチ)



山王塚古墳平面図

古代幡羅郡の郡付属寺院

にしべつが はいじ

⑨ 西別府廃寺 (熊谷市)

西別府廃寺は、熊谷市西別府にあり、櫛引台地に立地しています。遺跡は、隣接する深谷市域にかけて所在する幡羅郡家(郡役所)関連施設の一つで、奈良～平安時代に栄えた幡羅郡付属寺院としての性格を持ちます。

今回の調査は、平成28年7月から9月まで実施されました。溝状の大きな掘り込みから多量の瓦が検出され、中でも武蔵国分寺の瓦と共通の文様をもつ「均整唐草文軒平瓦」が数点完全な形で出土されたことは特筆されます。また、大きな建物の柱穴と思われる遺構が確認され、これまでの調査などから参道に位置する「中門」などの大型建物が推定できます。

調査機関・文：熊谷市教育委員会



柱跡



調査風景



均整唐草文軒平瓦

三面廂の大型掘立柱建物跡を持つ古代集落

⑩ 中平遺跡 (寄居町)

中平遺跡は松久丘陵の南側緩斜面にあります。奈良・平安時代の竪穴住居跡38軒、掘立柱建物跡15棟と、集落の北限を画する区画溝などが発見されました。特に、大型掘立柱建物跡は3×2間の身舎の北・西・南の三面に廂をもちます。柱掘り方も大きく、斜面に平行する方向に桁が通ることから、通常の建物とは異なる特殊な性格であったと思われます。中平遺跡は、隣接する北坂遺跡とともに古代那珂郡と榛沢郡の郡境近くに位置し、その性格が注目されます。

調査機関・文：(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



カマドの構築材に転用された壺



空中写真



三面廂の掘立柱建物跡



調査区全景



炉跡・羽口・埴埦

戦国時代の城館跡

⑪ 石戸城跡 (北本市)

遺跡は北本市石戸宿にあり、荒川を望む舌状台地上に立地しています。今回確認された遺構は、戦国時代(約450年前)の堀跡、掘立柱建物跡、柵列、地鎮跡、土坑などです。

堀跡は、曲輪を区画する遺構として新たに確認されたもので、並行するように柵列も検出されています。掘立柱建物跡のうち1棟は5間×2間の総柱建物で、建て替えが行われていました。

土坑からは、市内で初めて鎌倉時代(約700年前)のものと考えられる古瀬戸の瓶子(梅瓶)が出土しました。しかし、戦国時代から江戸時代初期(約400年前)の中国産磁器と一緒に出土していることから、後世になんかの理由で廃棄されたものと考えられます。

調査機関・文：北本市教育委員会



堀跡



調査区全景



掘立柱建物跡

古瀬戸の瓶子(梅瓶)

文化財収蔵施設 平成28年度新収蔵資料

埼玉県文化財収蔵施設には、県内各地の発掘調査で出土した資料が約40万点収蔵されています。発掘調査で発見された資料は、報告書刊行が終了すると文化財収蔵施設に収蔵され、学校教育、生涯学習、博物館等、様々な場での活用が図られています。

浅間下遺跡

(春日部市)

あさました

浅間下遺跡は縄文時代中期の環状集落の可能性があり、竪穴住居跡や貯蔵穴・墓壇などが見つかりました。写真の2つの深鉢は1つの竪穴の底に敷き詰められており、墓跡ではないかと考えられています。この2つの土器は系統が異なっており、相互の系統関係を探るうえで重要な資料となっています。

事業団報告書第418集『浅間下遺跡』



遺物出土状況



縄文時代の深鉢

屋敷裏遺跡

(羽生市)

やしきうら

屋敷裏遺跡は縄文時代から近世までの複合遺跡で、多数の住居跡が発見されています。古墳時代の住居跡からは、脚付長頸壺をはじめ多数の須恵器が見つかりました(写真1)。これらの土器の存在から、集落には地域の有力者がいたことがわかります。写真2の土器は古墳時代前期の台付甕(台は欠けています)で、口縁部に山陰地方、胴部に東海地方の特徴がみられるいわば「折衷土器」です。

平安時代の住居跡からは口琴(写真3・4)が出土しています。口琴とは世界中にある民族楽器の一種で、口にくわえて演奏すると「ビョーン」という不思議な音色を奏でます。国内の出土例としては3例目で、現在のところ国内最古のものです。

事業団報告書第422集『屋敷裏遺跡』



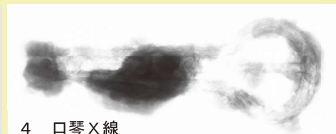
1 須恵器



2 山陰系甕



3 口琴



4 口琴X線

